


乳がん 高度検診・治療センター

NEW ーす

NO. 96

多遺伝子アッセイの最新情報 ～マンマプリントおよび ブループリント検査について～



乳がんのうちホルモン受容体陽性・HER2（ハーツ）陰性のルミナルタイプと呼ばれる乳がんは多くは治りやすい乳がんで、術後の薬物療法はホルモン療法が基準となります。ただ、なかには化学療法（抗がん剤治療）を上乗せしたほうがよい症例があり、判断に悩むことも少なくありません。そのような症例に対して化学療法を追加した方がよいかどうかの判断材料として幾種類かの多遺伝子アッセイが開発されています。世界的に一番普及しているのはオンコタイプDXで、実は2021年12月にわが国ですでに保険収載されています。ところが、その後検査の運用に手間取っており、発売時期、受託検査会社などについて2022年4月現在未定であり、いつから使用できるのかまだ見通しが立っていません。

当院で実施出来る多遺伝子アッセイのご紹介



マンマプリント検査

オンコタイプDXとほぼ同等の評価が得られており、乳がんに関連した70種類の遺伝子を調べることで、再発リスクがどの程度か、また化学療法が必要かどうか、などについて予測する検査です。マンマプリントの結果は、「ハイリスク」と「ローリスク」の2分類で報告され、後者に該当すれば再発リスクは低く化学療法を避けることができます。また「ローリスク」のうちでも、きわめてたちのよい「ウルトラローリスク」と判定されれば、化学療法の回避だけでなく、ホルモン療法の期間短縮が容認されることもあります。



ブループリント検査

個々の乳がんの生物学的特性を反映したサブタイプを判定します。本来サブタイプ分類は遺伝子情報の分析によって行われるべきものですが、検査が困難なため暫定的に手術標本や生検材料に特殊な染色を施し「臨床的サブタイプ」として代用しています（センターニュースNo.24参照）。ブループリントにより真の分子サブタイプの判定が可能となり、マンマプリントとの併用でより適切な治療を選択できるようになりました。

マンマプリントとブループリントの検査は、手術標本や生検材料を用いますので、この検査のために新たに組織や血液を採取することはありません。現在、この検査は保険適応がないため自費診療となり、この種の検査の常としてかなり高額です。ただ、契約されている民間保険の内容によっては給付金が支払われる場合もあります。

もし検査を希望されない場合には、従来からの病理検査に基づく情報により、化学療法の利益・不利益の説明を受けたうえで、担当医との相談のうえ、共同意思決定(shared decision-making)で治療方針を決定することになります。

乳腺外科 稲治 英生

市立貝塚病院 電話：072-422-5865